

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801164		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 青葉の里		
所在地	福岡市東区青葉6-43-11 〒813-0025 (電話) 092-691-8263		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月24日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 2 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	8 人	常勤	6 人	非常勤 2 人 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(50,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400 円程度	

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	5 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 原土井病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの閑静な住宅地の中に位置し、建物は木造の平屋建てで地域に自然に溶け込んでいる。ホームの周辺に母体の医療機関や介護サービス事業所が隣接しており、医療・介護面のバックアップ体制は、利用者や家族に安心感を与えている。ホーム内は、利用者が外出した際のスナップ写真や季節感を取り入れた装飾品が飾られ、ゆとりと笑いに包まれた生活環境を醸し出している。「ゆっくり楽しく、自分らしく」の理念のもとに、常に利用者の主体性を尊重し、利用者一人ひとりの得意なことや出来ることを把握し、大正琴が得意な利用者が大正琴を披露するなど、利用者一人ひとりの能力に応じた自立した生活が営めるよう支援している。近隣の方が気軽にホームを訪れ、カラオケを披露したり、ホームの忘年会へ参加するなど、地域との交流が図られている。開設して7年目を迎え、今後の発展が大いに期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、運営推進会議や家族会にて報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、近隣との交流が積極的に図られるなどの具体的な成果がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、隣組長、民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員、地域住民、利用者、家族などの参加のもと2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に外部評価の結果やホームの活動状況報告が行われ、運営推進会議のあり方についての質問にホームよりホーム概要とともに説明するなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時の声かけや家族会などを通じて、利用者の日常の様子や行事参加、外出の様子などを報告している。2ヶ月に1度、ホーム便りを送付し、活動状況や行事報告、行事案内を行うなどの取組みがある。また、今回初めてのホーム独自による夏祭り開催にあたり、全家族に参加を呼びかけている。家族会を年1回開催し、家族との交流を深めるなど、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域ボランティアによる三味線の披露や近隣の方が気軽にホームを訪れカラオケを披露したり、ホームの忘年会へ参加するなど、地域との交流が積極的に行われている。日々の散歩時の挨拶や近隣の方から花をもらうなど、自然な形で地域交流への取組みがある。地域の方々今回初めて開催するホームの夏祭りへの参加を呼びかけている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり楽しく、自分らしく」の理念をもとに住み慣れた 地域で地域住民との触れ合い活動に積極的に参加することを重視しながら、日々の業務に取り組んでいる。常に利用者の主体性を尊重し、利用者一人ひとりの能力に応じた自立した生活が営めるよう支援している。また、利用者・家族との馴染みの関係や絆を大切に寄り添ったケアの提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、自然に目に入る工夫がある。運営推進会議時に理念の説明を行い、業務の合間に理念に立ち戻り、確認している。日々職員同士で業務と理念とを照らし合わせて検討したり、月1回のミーティングを通じて、理念に基づいたケアについて協議するなど、理念の実践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアによる三味線の披露や近隣の方が気軽にホームを訪れ、カラオケを披露したり、ホームの忘年会へ参加するなど、地域との交流が積極的に行われている。日々の散歩時の挨拶や近隣の方から花をもらうなど、自然な形で地域交流への取組みがある。地域の方々に今回初めて行うホーム独自の夏祭りへの参加を呼びかけている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果について、運営推進会議や家族会にて報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で近隣との交流が積極的に行われるなどの具体的な成果がみられる。今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認するなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、隣組長、民生委員、老人会長、地域包括支援センター職員、地域住民、利用者、家族の参加のもと2ヶ月毎に開催している。運営推進会議で外部評価の結果やホームの活動状況についての報告が行われ、運営推進会議のあり方についての質問にホームよりホームの概要とともに説明するなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携やその都度の行政窓口へ赴いての相談、電話連絡など、市町村との連携への取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の外部研修や法人全体の研修、法人内の介護部門での研修に積極的に参加し、ミーティング時に受講報告を行うなど、職員全体で理解を深めている。契約時に成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要や利用手順についての説明を行い、必要時活用に向けての支援を行なっている。	○	家族会やホーム通信などを利用して全家族への定期的な情報提供の機会を設け、利用者、家族が活用できるような支援を期待します。また、運営推進会議などを利用して、いきいきセンターふくおかの職員から制度について講義をしてもらうなど、繰り返しの制度の説明を行ない、職員全体によるより一層の制度の理解を促すための取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや家族会、運営推進会議時などを通じて、利用者の日常の様子や行事参加、外出の様子などを報告している。2ヶ月に1度ホーム便りを送付し、活動状況や行事報告、行事案内を行うなどの取り組みがある。また、今回初めてのホーム独自の夏祭りへの参加を家族全員に呼びかけている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催し、家族との交流を深めるなど、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、家族の思いや意向の把握に努めている。出された意見は、内容に応じてその場での回答や職員間で話し合い、ケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が働きやすい環境を整え、常に傾聴の姿勢で職員の話や聞き、ミーティング時などで職員が自由に話し合える関係づくりに努めている。異動時は、2週間から1ヶ月程度は引継ぎ期間を設け、新しい職員が入職した際は、管理者が見守りながら指導にあたるなど、利用者との馴染みの関係性が保たれる支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して年齢や性別などによる制限は行っていない。手先の器用な職員がホーム内の壁飾りの品々を作るなど、職員の長所や特技を活かしやりがいを持って勤務していけるように支援している。利用者の担当職員が、入院時に利用者の心身状態の把握を行ったり、介護計画書の内容などについて評価・検討を行うなど、自主的な活動へ取り組んでいる。外部研修参加や資格取得を目指す職員については、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内の人権研修やグループホーム協議会の外部研修に職員が参加し、受講報告会により全職員が人権教育・啓発活動について学ぶ取組みがある。日々の業務にて人権尊重や高齢者の尊厳に関わる気づきがあれば、管理者が指導を行うなどの取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やグループホーム協議会の研修に職員が参加し、職員全体でスキルアップを図る取組みがある。法人内研修に全職員が参加したり、研修内容などを考慮し管理者が外部研修の参加を促すなどの取組みがある。ミーティング時に受講報告会を行い、職員全体で知識の共有を図る取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会の研修を通じて、他事業所職員との意見交換や交流が行われている。また、ブロック間で合同運動会を行う予定である。法人内事業所や地域の小規模多機能事業所のレクリエーションに参加したり、合同で夏祭りなどを行うなど、職員間の交流・連携が図られ、質の向上に向けた取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談による聞取りや体験利用、主治医や他事業所との連携を通じて本人の様子を見ながら、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、状況に応じて家族への面会をお願いしたり、頻繁な声かけを行うなど、かかわりを多くし、徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、日常のかかわりの中で人生観や地域の言葉、風習、料理の仕方などを教えてもらうなど、利用者から様々なことを学ぼうとする取組みがある。利用者が職員へねぎらいや感謝の言葉を自然とかけたり、利用者同士で励ましあったり、ホーム全体で喜怒哀楽をともにしながら、お互いを尊重し支え合いながら過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時、運営推進会議や家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。利用者との日々のかかわりを通じて、利用者の何気ない言葉や行動、表情などから利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、毎月のミーティング時に職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に把握した生活歴や希望、家族の意向、日々のかかわりの中で把握した情報をもとに、計画作成担当者が介護計画書の原案を作成している。担当職員が主に介護計画書の内容を検討し、ケアカンファレンス時に職員全員で協議・検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	状況の変化時や家族の希望時、または3ヵ月毎に内 容の評価、検討及び再作成が行われている。利用者 の情報交換や心身状況の変化について申し送りにて 確認を行っている。全職員による月に1度のケアカン ファレンス時に利用者や家族の意向の確認が行わ れ、ケアについての手順や内容についての見直し、再 作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関の月2回の 往診や週1回の訪問看護師との連携支援、かかりつ け医への通院介助、入院先の医療関係者との連携や 担当職員の面会による利用者の状態把握、利用者の 希望による家族との外出支援など、利用者の状況や 家族の要望に応じて、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の 利用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援 している。ホーム協力医との連携により、月2回の訪 問診療や週1回の訪問看護師による利用者の状態把 握及び状態に応じて協力病院への受診の支援があ る。かかりつけ医への受診については、家族の協力を 得てホームにて支援するなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	利用者との日々のかかわりを通じて、利用者の何気 ない言葉や表情などから利用者一人ひとりの思いや 意向を汲み取り、書面で利用者の意向を確認してい る。本人・家族の希望に応じて主治医、看護師、家族 などを交えて協議を行い、職員間で方針を共有する 支援体制づくりについては、今後の課題である。		今後、その時々々の状態変化に応じて家族・主治医・ 事業所などを交えて協議し、方針を共有するなど、 本人・家族の希望に沿った支援体制が整えられるこ とを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、法人全体の接遇研修に参加したり、日々のケ アやミーティング時に管理者が指導するなど、職員の 意識の向上を図る取り組みがある。タイミングを見計 らって利用者一人ひとりに応じたさりげない声かけや 視線を合わせて笑顔で傾聴するなど、利用者の自尊 心やプライバシーに配慮した対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちや利用者の体調に配 慮しながら、決して無理強いせず、食事や入浴のタイ ミング、食事のペースなど、利用者一人ひとりのペ ースを尊重し支援している。利用者がどのようにして過 ごしたいかなど、利用者の何気ない言葉を傾聴し、利 用者の思いや意向に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の特定施設で作られた食事を提供し、月に1 度、料理の日を設け、利用者の好みを取り入れた食 事を利用者ともに味わうなど、食事を楽しむための工 夫がある。お盆拭きや下膳、食器洗いなどを利用者 一人ひとりができる範囲で行うなどの取り組みがある。 利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、和やかな雰 囲気の中で食事を楽しめるような取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	一日おきの入浴が基本であるが、毎日の入浴も可 能であり、利用者の体調に配慮しながら、利用者一人 ひとりの希望に応じて柔軟に対応している。入浴の順 番や回数など、利用者の希望に沿って支援している。 入浴時に心身状況が不安定になる利用者へ、タイミ ングを見計らったの声かけやスキンシップを図るな ど、入浴が心地よく、楽しめるように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	お盆やテーブル拭き、下膳、食器洗い、雑巾かけな ど、利用者一人ひとりの役割等が自然にできており、 利用者の残存能力を活かし、出来ることや生活歴な どを把握した上での支援がある。大正琴が得意な利 用者が、演奏を披露したり、家族とともに外食や自宅 で食事を楽しむなど、利用者の楽しみごとを把握した 上での働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩や山笠見学、買い物、外食など、利用者 の状況に応じてできるだけ戸外にでかける支援が行 われている。天気の良い日は、散歩やホームのテラ スで外気浴を楽しみ、気分転換を図るなど、積極的に 戸外に出る取組みがある。個別の希望に沿って買い 物や外食など、利用者の希望やその時々状況に合 わせた外出支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に出入りできる。 職員は利用者の様子をきめ細かく観察、見守りなが ら、さりげなく声をかけるなど、利用者の自由な暮らし を支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導による避難訓練を実施し、 避難経路の確認、消火器の使い方などの指導が行 われている。自治会に加入し、自治会へ働きかけを 行ったり、日々のかかわりを通じて、近隣への協力を 得るための働きかけを行う取組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の特定施設の管理栄養士が、栄養バランス を考慮したメニューを作成し、特定施設で作られた食 事を提供している。利用者ごとに毎食の食事摂取量 を記録し、利用者の状況に応じて、とろみ食やキザミ 食など、栄養摂取への工夫がみられる。リビングにや かんを置いたり、水分摂取の少ない利用者へ声かけ を行うなど、水分確保に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のホームであり、リビングから続く庭先 には、布団などが干されており、家庭的な雰囲気と心 和ませる空間を醸し出している。リビングや廊下には、 季節感のある飾りつけや利用者の手作り作品が 飾られ、テーブルの上には季節の花が飾られるなど、 アットホームで居心地良く過ごすための工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具や本、椅子、写真などが持ち 込まれている。居室には、ベッドや布団の寝具が置か れ、利用者の生活習慣や身体状況に応じて安全で使 いやすいように配慮されている。居室で利用者と職員 が、互いに肩のマッサージを行いながら、穏やかに談 笑され、居心地良く過ごされているのが伺えた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号